



YUIME

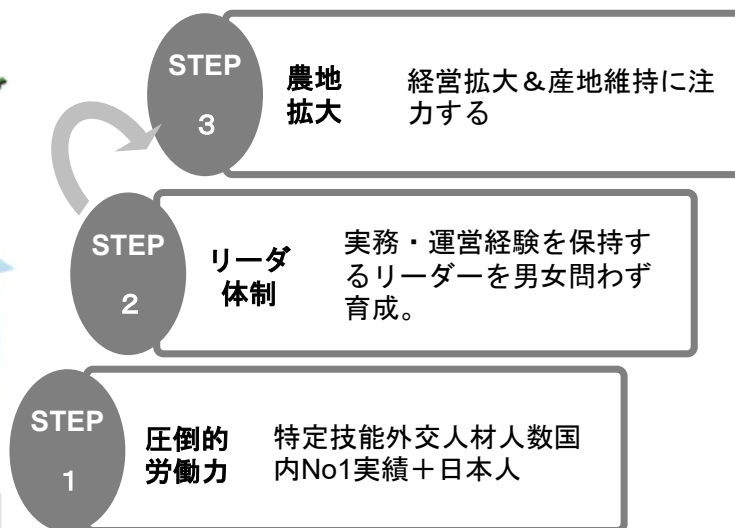
協同農業普及事業の推進に向けた 課題の考察と提言

～本事業を取り巻く情勢と新たな運営指針を踏まえて～

2024.12.6

YUIMEとは

産地間連携で全国へ展開



チーム体制を構築

圃場・選果場など

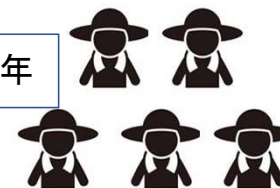
3年～



リーダー

当日の状況にあわせて作業スタッフへの指示など。特定技能2号人材も活躍

1～2年



作業スタッフ

リーダー指示の基作業を実施

全国の農業現場に特化した労働カインフラを構築

普及指導員との連携事例

富山県・県JA

高収益作物への転換により
人手不足の状況が加速

玉ねぎ・トマト・青ネギの
収穫、出荷（砺波市・富山市）

人手不足をサポート
する作業請負体制の
確立

JAさが

日本人労働力の限界

玉ねぎ出荷（佐賀県白石町）

成功した主な要因

- ・ 農家の実情や経年の課題等を熟知し、地域の情報を網羅的に把握した指導員の存在
- ・ 指導員がYUIMEをはじめとした関係者と有機的に連携できていた

協同農業普及事業の運営に関する指針の「基本的な課題」および「活動方法に関する基本的事項」すぐに確認できる状況であったことが成功要因

**他の地域では
偏りあり!?**

地域により推進状況に偏りがあると推察

①そもそもの課題定義、状況（課題に対する対策および計画）が農家や支援サービス機関が把握しづらい状況

農家の声が指導員届かなくなり、外部の支援機関も普及員ではなく直接農家に届けてしまうため、地域により普及員の影響が薄くなる

②普及計画に基づく活動状況や成果への評価がその後現場でどのように活用されているか

→ 運営指針で示された中で、特に「評価及び改善」の実態が関係者に把握しづらい



評価を踏まえた現状把握、課題定義、アクションプランを関係者間で共有し、実態の伴った改善に繋げていく必要性

【提言】 評価を踏まえた現状や課題等の共有

①地域課題と対策状況や活用実態を一部に公表（登録機関等）

→ 基本的な課題と活動方法事項の地域別定義、それにともなう活動状況を記録（例 地域リーダー件数有無、作物別生産性定義、外部人材登用必要有無とその課題等）

②システム上で公表、相互に共有するインフラの整備

- 上記①を地域ブロック別、共通指標（担い手育成等）別に公表
- 担当者が変わっても経年の情報を適切に把握（アーカイブ化）
- 公表対象範囲に農業支援サービス登録企業等を含めることで、改善をより実質的かつ効率的に



他の地域の状況や課題を知り、担当地域に活かす

▶ 指導員のファシリテーターとしての役割強化

※評価そのものは既存の仕組み上実施されているという前提で

3年に一度の外部評価以外公開されなくてもよい（特に個人情報・機微情報含むため）